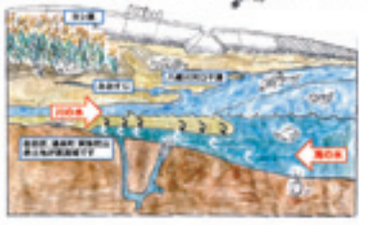
佐伯区ふるさと文庫

生きものいっぱい 八幡川河口干潟

河口は、かぎりなく海に近いところであり、潮の干満の影響を大きく受けます。満ち潮のときは海水で満たされ、潮が引くと陸地が現れます。しかし、河口の水は、塩水と真水とが混じり合うのでなく、重さのちがう水が層になっています。干潟の泥や砂のなかで暮らす生き物たちは、ほいほいったり、穴を掘ったりして常に泥や砂をかき混ぜます。こうしてできたたくさんの隙間を水が行き来するので、干潟はしだいにきれいになっていきます。これを物理的浄化といいます。また、生きものはみのなかの栄養をこしとる、泥を食べて有機物を取り込む、その有機物を分解するなどして、干潟をさらにきれいにします。これを生物的浄化といいます。その浄化能力は、人間が作った下水処理施設をはるかに上回ると言われています。

干潟を埋め立てたり、なくしたりしてしまうと、多くの生き物たちはすきまがなくなり、これらの作用がはたらかなくなってしまいます。そして、一度なくなった干潟は簡単にはもとに戻せません。



干潟は、遠い昔から、いろいろな生き物がつながりあって生き続けてきた、とても素晴らしい大切な場所なのです。

干潟に出る前後と準備するもの★注意

まず準備しよう!

上手な干潟観察のしかた

・観察するときには、必ず先生あるいは方と一緒に行動しましょう。

・観察前のときの心の準備を調べ、生き物の観察者を多くの観察しよう。

・採集した生き物を観察するための箱や、ルーペがあると便利です。

・服は長袖、長ズボンで、帽子をかぶり、水が跳ねるかもしれないので、

・手袋をして、カキの殻などで手足をけがしないように気をつけて。

・石の上は滑りやすいので歩きやすいように。

・採集した生き物は観察が終わったら、もとの場所に返そう。

佐伯区ふるさと文庫　吉見園公民館事業「八幡川干潟探検隊」

発行／平成19年3月　広島市佐伯区役所・吉見園公民館

編集委員（アイウエオ順）

飯尾 千絵　石井 健　岡田 勲　川本 通　染井 真吾　田中 由美子　橋本 弘子　畑 久美

写真提供（鳥類）　今井義尚

●ヨシ原のようす

河川などに広く生育する大型多年草のヨシは、地下茎を伸ばして増え、とりわけ川幅が広がる河口近くでは大群落を形成します。

水質浄化に貢献するヨシ群落

水質浄化に貢献するヨシ群落

水質浄化に貢献するヨシ群落

水質浄化に貢献するヨシ群落